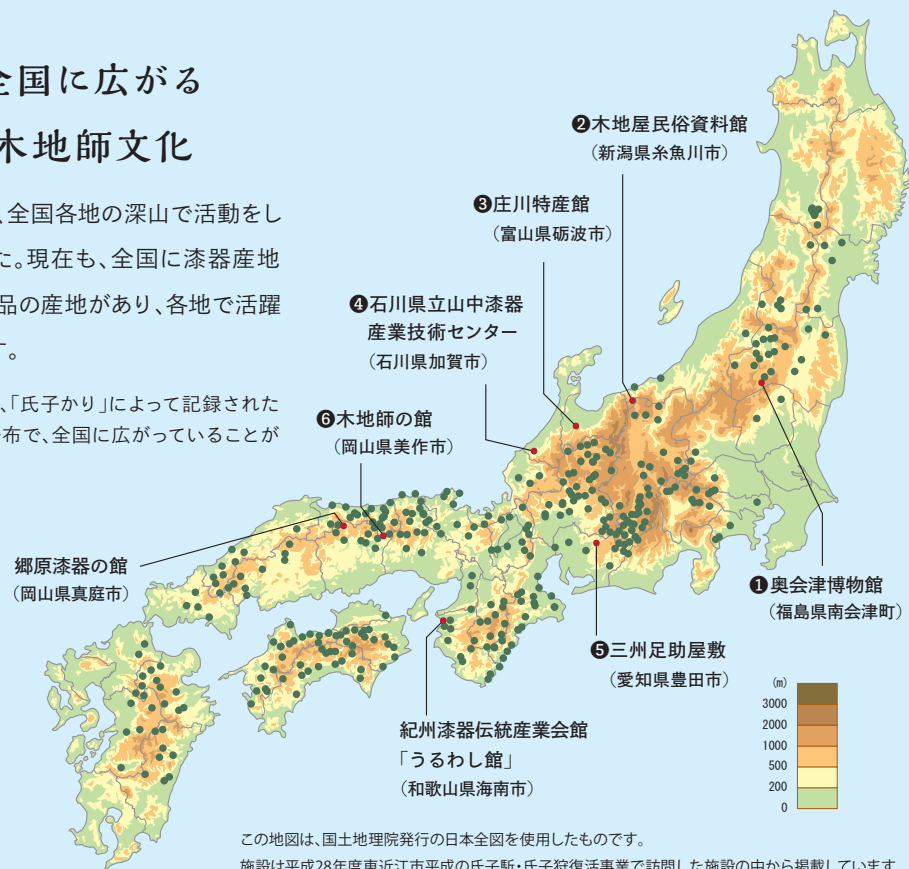


全国に広がる 木地師文化

木地師は、全国各地の深山で活動してきました。現在も、全国に漆器産地や木工芸品の産地があり、各地で活躍しています。

地図の●は、「氏子かり」によって記録された木地師の分布で、全国に広がっていることが分かります。



氏子かりと「駈帳」「狩帳」

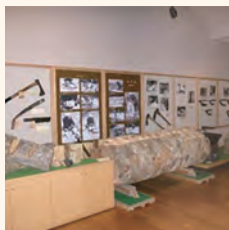
蛭谷町と君ヶ畑町は、明治の初めまで全国各地で活躍している木地師たちのもとを訪ね歩く「氏子かり」を行い、それぞれの神社への氏子料などを徴収する一方で、神札や鑑札(営業許可)などを配っていました。それらの記録が「氏子駈帳(かけちょう)」「氏子狩帳(かりちょう)」です。江戸時代の木地師の統轄のありよう、全国の木地師の分布と移動の様子、集団の形態などを紐解くことができる稀有な史料です。

木地師文化を紹介する全国の主な施設

休館日や入館料などは各施設のホームページ等でご確認ください。

①奥会津博物館(福島県南会津町)

世界有数の多雪地域である奥会津で生活した人々が使用した民具を多数展示しています。なかでも会津漆器に用いる椀木地を生産した木地師に関する展示は、充実し一見の価値があります。



福島県南会津郡南会津町
糸沢字西沢山3692-20
TEL 0241-66-3077

②木地屋民俗資料館(新潟県糸魚川市)

建物は木地屋独特の民家を使い、国の重要有形民俗文化財約1400点の道具、製品、古文書等を所蔵しています。板の木が漆器になるまでの工程をわかりやすく展示しています。



新潟県糸魚川市大字大所797-1
TEL 0255-57-2501
11/4-4/30閉館(降雪により変更あり)

③庄川特産館(富山県砺波市)

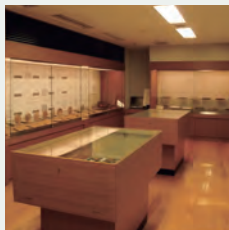
庄川水記念公園内にある施設の一つです。庄川挽物の展示・販売のほか、木工ろくろの実演やペン立てづくりの木工ろくろ体験(4月～11月の日曜日)もできます。



富山県砺波市庄川町金屋1100
TEL 0763-82-5696

④石川県立山中漆器産業技術センター(石川県加賀市)

挽物ろくろ技術を専門的に学べる研修施設です。展示室と資料室には近代・現代の山中漆器の作品とろくろ挽きを主にした山中漆器関連の道具などの資料が展示されています。



石川県加賀市山中温泉塚谷町イ270
TEL 0761-78-1696

⑤三州足助屋敷(愛知県豊田市)

明治から昭和初期にかけての中山間部の農家の暮らしと手仕事再現された施設です。ここでは11種類の手仕事の一つとして「木地屋」の仕事の様子を実際に見ることができます。



愛知県豊田市足助町飯盛36番地
TEL 0565-62-1188

⑥木地師の館(岡山県美作市)

約450年前から木地師が住んでいた地区にある木地師の技術を伝承する工房です。ろくろを使い、ヒノキ、ケヤキ等の天然木から盆や菓子器などの製作を初心者から体験できます。



岡山県美作市右手2461-2
TEL 0868-77-2316
または 090-8364-4636

Facebookでも情報発信中!

「木地師のふるさと」

<http://www.facebook.com/higashioumi.kijishi>

木地師の歴史と文化に関する情報発信やネットワークづくりのためにFacebookページを開設しました。ぜひ「いいね」を押してください。



東近江市 企画部企画課 2017年3月 発行

〒527-8527 滋賀県東近江市八日市緑町10番5号
TEL (代表)0748-24-1234 (直通)0748-24-5610
FAX 0748-24-1457

企画・編集：株式会社 地域計画建築研究所(アルバック)

デザイン：株式会社 タケコマイ

写真(表紙、東近江市の製品、東近江市の木地師)：富永一史

森と生きる
日本人の暮らしと知恵

木地師

- Kijishi -

木地師のふるさと

東近江市

木地師とは

ろくろ(轆轤)と呼ばれる工具で、とち・ぶな・けやきなどからおもに椀や盆などの木地をつくる職人のことを木地師と言います。ろくろ師や木地屋とも呼ばれます。かつて木地師の多くは、日本各地の深山に入っろくろを引き、良材を求めて新しい山へと移住する暮らしを送っていました。木地師は、ろくろで回転させた木材に、「手カンナ」をあてて製品を削り出します。製品の微妙な表面を削り出すために、刃の形や柄の長さの異なる何本もの手カンナを駆使します。この手カンナは、木地師が自ら刃を鍛えたり、研いでおり、木を削る技術ともに、鍛冶などの技術も重要と言われています。

ろくろ技術は、椀や盆にとどまらず明治以降の産業革命によって精密機器、万年筆、装飾具など様々な用途に広がり、私たちの身近なところにもあります。



東近江市の製品



パスタ皿



アクセサリーケース



蛭谷椀



お盆

木地師のふるさと 蛭谷町・君ヶ畑町



かつて「筒井公文所」の名で、全国の木地師を保護・統轄していた筒井神社がある地区です。筒井神社は木地師・ろくろの祖神とされ、その境内には「木地師資料館」があり、木地製品や氏子狩帳、往来手形などの古文書類や能面などが展示されています。



木地師資料館
筒井神社の境内にあり、蛭谷町所有の氏子駄に関する資料や木地製品などが展示されています。4月1日～11月30日のみ開館。要予約で料金は300円です。TEL 050-5802-3313

木地師ろくろの祖神とされる大皇器地祖神社(おおきみきじそじんじゃ)がある地区です。また、金龍寺は「高松御所」とも呼ばれ、氏子狩帳などの古文書が所蔵されており、全国の木地師を保護・統轄していました。金龍寺に隣接して惟喬親王のものとされる墳丘もあります。



君ヶ畑ミニ展示館
コミュニティバス終点のバス停にある展示館。木地製品やろくろの制作工程を紹介する資料などが展示されています。無料でいつでも見学できます。

▶ 蛭谷町、君ヶ畑町では、地域が中心になって、木地師などの作品を集めたイベントや木地師のふるさとを巡るまち歩きツアーなどが行われています。

匠の祭



秋には筒井神社周辺で木地師の作品をはじめ、木工やガラス、陶芸、革細工など各地から集まった匠の作品が展示・販売されるイベントが開催されています。

指定文化財の公開ツアー



9月に金龍寺(高松御所)で行われる虫干しの際に氏子狩帳などの古文書類が一般公開される案内ツアーが実施されています。

東近江市の木地師



木工きたの「筒井ろくろ」北野清治さん

小椋谷は、全国の木地師にとって「聖地」です。その地でろくろをまわす木地師としての生業を得られたことは本当に幸せです。使い捨ての商品があふれる世の中において、木地師がつくる作品を通じて「物を大切にすること」を伝えたい。また、できるだけ地元の木を大事に使うことを心がけていきたいと思っています。



ろくろ工房 君奎(きみもく)小椋昭二さん

発祥の地君ヶ畑で木地師として20年ぐらい前からろくろを回しています。商品は、「けやき」や「とち」などの木をろくろで仕上げるお盆や菓子器が中心ですが、樹種にはこだわらず、柄や木目の面白い木を見つけてきて制作するのが何よりの「楽しみ」です。また、木の香にも魅せられるような作品をつくりたいと思っています。

